

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年4月23日(金)

## ◇ 令和3年度のグラウンドは…

風薫る4月。教室を抜ける風は爽やか。子供たちの表情も晴れやか。新年度が始まる春は、最も学習に取り組みやすい季節である。

温暖で過ごしやすい気候は、人だけでなく植物をも活気づける。グラウンドの鬼芝が、目を覚ましたかのように一斉に地表から新芽を現した。加えて、適度な雨がその成長を加速させる。

ただし、昨年と異なる点は、冬季のグラウンド整備で鬼芝が新芽を出しただけで、それを目視確認できるところにある。浅黄色の地表がうっすらと黒みを帯びる。鬼芝の新芽は緑ではなく、どちらかといえば黒い。グラウンドの地表が浅黄色だから本当によく分かるのだ。

この程度でがっかりなどしてはいられない。とうに承知済み。想定内である。効果の有無は未確認だが、準備は整えてある。効果を確認するチャンスでもある。

準備とは、「塩化カリウム」。学校のグラウンドにも散布するが、これにより風で地表の砂が巻き上げられることを防ぐことができる。

最も一般的な用途としては、橋の凍結対応である。冬季の橋は凍結しやすく、交通事故発生危険度が高まる。そこで、橋が凍る前や凍結した橋に散布するのが「塩化カリウム」。冬季に橋の隅に置いてある袋入りの白色の粒。あれである。「塩化カリウム」は湿気に弱く、水気を含むと固結する性質がある。冬季に使用されなかったものは回収され、学校等にも配布されるが、多くは焼却処分となる。

この「塩化カリウム」、散布すると草が生えにくくなるという情報を耳にする。しかも、未使用の大量の残がまだあるという。そこで、20kg入りの大袋を40袋確保。山田校務員と加藤校務主任が早速グラウンドに撒いてくれた。するとどうだ。即効性はないが、「塩化カリウム」の散布により、明らかに鬼芝の生長が弱まった。さらに「根こそぎ君 NEO」が地表を走る。

ついでに市の現業事務所に問い合わせる。「もう40袋ください」で再ゲット。



この写真は、昨年の6月に撮影した「ドローン写真」。

ひと昔前は、セスナが学校上空を飛んで撮影した「航空写真」であったが、今や小型高性能カメラを装着した50cm四方のドローンが撮影。精度の高さに驚く。

何と云っても、グラウンド地表のうっすら濃くなっている部分。鬼芝をしっかり捉えている。特にしつこい鬼芝が、「右のサッカーゴール周辺」「朝礼台付近」「バックネット前」、分かりにくいが見る範囲の下方全体…であった。ちゃんと写真に写り込んでいる。それでも撮影当時は、「見違えるほどきれいになった」と喜んでいたのである。

写真は、撮影直前に、50名を優に超える寿会の皆さんが2時間たっぷり草取りをしてくれた後の状態。その前はグラウンド全体が緑色だった。ご協力に感謝。

今年も運動会前の5月11日に常東寿会の皆さんに草取りをご協力いただける。昨年までと異なる点は鬼芝の量。取りやすく、負担は軽減されると思われる。活動後は、今後のために、是非、ご意見をお聞かせ願いたい。

さて、再ゲットの「塩化カリウム」。使用は夏休みごろ。効果が楽しみである。